

オブジェ ~ 平和 ~ ・ 食を楽しむ

a2200331 吉川 貴子

『制作意図・コンセプト』

* オブジェ *

・一般的な漆のイメージと違うものも制作し、それぞれの技法の味わいを表現したいと考え2つの平和のオブジェを制作することにした。

願 球を地球に見立て、それを包み込むような形にした。球は層を出すことで世界の平和な所もあればそうでない所もあるということを表現した。

希望 平和な未来への希望という想いを込めて、未来に向かって飛躍するような形を表現した。

食器類 使えるものとして、セットとして制作した。また、食事の他にもちょっとした間食などにも使える器を加えた。いくつかに漆絵を施し、手描き感やあたたかみのあるものに仕上げ、普段の食事で気軽に使えるようなものにした。

『制作過程』

オブジェ < 願 > 呂色仕上げ

- 1・型作り・型調整
- 2・切り粉付けー研ぎ
- 3・布着せ
- 4・錆付けー研ぎ
- 5・錆固めー研ぎ
- 6・すぐるめー炭研ぎ
- 7・黒呂色ー炭研ぎ
- 8・摺り漆
- 9・胴摺り
- 10・呂色仕上げ

(球)

} 同じ
・色漆(朱)
・胴摺り

オブジェ < 希望 > 石目仕上げ

- 7まで同じ
- 8・乾漆粉をまく
- 9・塩化ビニル系の塗料で固める

食器類

- 1・木固め(生漆+シンナー)
- 2・重ね塗り(生漆-5回繰り返し-研ぎ)
- 4・胴摺り

< 丸皿 >

拭き漆 -10回繰り返し

(生漆-研ぎ-繰り返し)

『考察・感想』

オブジェの制作では研ぎの工程がとても時間がかかり、研ぎムラができてたりと大変だった。艶を出していく段階でムラやでこぼこが前面に出てきてしまい、見えないところも丁寧に根気強く仕上げていくという積み重ねがいいものを生み出すのだと改めて感じた。石目仕上げは今まで見たことのないものだったので、この制作をきっかけに新しい漆を知ることができた。デザインから考えて制作してきたので、とてもやりがいがあり、楽しかった。食器類は、使う側として身近なものだったが、自分で漆を施すことで、愛着がわき、さらに身近に感じられるようになった。今まで、漆を伝統工芸として、さらに、職人のつくるものとしてしか見てなかった自分が、作品をつくれるなんてとても考えられなかった。制作を通して会津の伝統工芸を肌で感じられたこと、そしてものづくりの楽しさを知れたことがとてもうれしい。これからは以前とは違った目線で漆を手にとることができそうな気がする。

オブジェ



希望



願

食器類



お椀・お猪口・皿・箸(置き)・ランチョンマット



丸皿



コップ